

# Forest

2011.12.5 3学年通信 第12号

## フワフワ

三者面談が終わってしばらくすると、3年生が突然落ち着かなくなります。今年もそうでした。まだ事件は起こっていませんが、とても危険です。だから、この通信を書くことにしました。

毎年、教師が進路の書類書きで遅くまで仕事をしている時期に、「なんでこんな事件を起こすの?」「どうして君がこんなことをしたの?」ということが起こるのです。

今まで、「この時期になぜ?」と思っていたのですが、今年になって、「もしかしたら、みんなお疲れで、いろいろ事件を起こすのかもしれない」という仮説が思い浮かびました。

だれでも目いっぱいがんばったあとは、とても疲れます。それでもがんばろうとすると、体の調子が悪くなったり、集中力がなくなったり、判断力がなくなったりします。私が仕事で失敗するのはそんな時です。

みなさんのフワフワは、自分の進路選択に真剣に取り組んで疲れたのが原因だと思います。物事を決断するには、非常にエネルギーがいるのです。それが、自分の一生を左右すると思えば、「あーでもない。こーでもない。」と、いろいろ考えます。

「考える」というのは脳細胞のはたらきですから、エネルギーが必要です。

それだけではありません。親や先生とも今までになく真剣に話し合ったことでしょう。これもエネルギーを使います。

みんながフワフワしているわけを、そうやって説明した時、意外な顔をした人が何人もいました。修学旅行や体育祭の時は体も疲れたので、「疲れた」というのがよくわかったと思います。

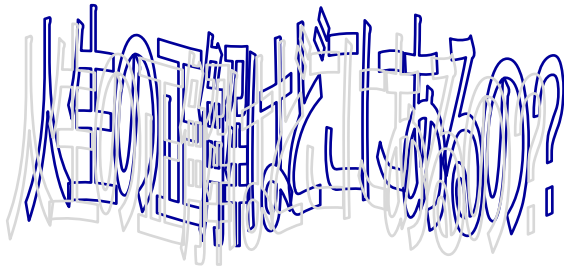
しかし、進路選択は肉体的な疲れよりも精神的な疲れのほうが大きいので、はじめてこういう経験をした人には自覚できないかもしれません。

### **疲れたからといって、何をしてもよいわけではありません。**

あなたの緊張度は今、何%ですか?

できれば70%ぐらい、少なくとも50%ぐらいにはしておきましょう。その程度の緊張感を維持していないと、物を壊したり、けが人が出たり、友達とトラブルを起こします。

そして、フワフワがおさまるまでは少しのんびり過ごしましょう。そのほうが受験勉強の能率も上がりますよ。



人生は、理科の実験とは違います。対照実験はできません。とても複雑なので、この先何が起こるか、だれと出会うか、予測できません。

とりあえず、今自分ができる、「一番よいと思われる」ことをやっていきましょう。

やっと進路を決めたと思ったら、次は「これでよかったの？」という疑問がわいてくる人がいます。

「もっといい進路があったのかもしれない」と思ったりします。友達の話聞いて、「前期で合格したほうが楽だ。志望校を変えよう」と悩む人もいます。

私は大学受験のとき、倍率の高い大学に合格して、合格した瞬間はうれしかったのに、「友達がもっと難しい大学に合格した」という話を聞いたら「そういう選択肢もあったかもしれない」と思いました。

大学に通って1年たったとき、高校時代に同じような成績だった友だちが、浪人してある大学に合格しました。私が去年、受験しても受かりそうになくてあきらめた大学に合格したのです。それを聞いた時には、「あれー、私もがんばれば合格したのかな」と複雑な気持ちになりました。**大学生だって揺れ動く**のです。中学生がすっかりきまらないのは当たり前ですね。

これから、入試当日まで、他にベストアンサーがあるような気がして、不安になることがあるかもしれません。でも、長い間生きてきて思うのは、「**一番大切なのは、〈どこに行くか〉ではなくて〈ここで何をするか〉だ**」ということです。